

## 海外投融資情報財団(JOI)について

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、機関誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

**設立** 平成3年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立  
平成22年11月1日(一般財団法人移行)

**会員** 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等 約200先(平成29年11月現在)

### 会員制度(賛助会員)のご案内

当財団会員にご入会いただきますと、以下のサービスを受けることができます。

- (1) 当財団が主催、後援、協力するセミナー(年間60件程度)への無料招待
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催
- (3) 機関誌「海外投融資」(隔月発行)の無料配布
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっている、セミナー動画・配布資料、機関誌「海外投融資」記事、レポート、「国際金融機関便覧」等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)

## 海外投融資

Vol.26 No.6(通巻156号)  
2017年11月30日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

本間 学

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311(代)

FAX. 03-5210-3456

制作協力

(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan

## 拓さんの 九段だより

### ●もうひとつの明治150年

先日、千葉県銚子市のいぬぼうさき犬吠埼灯台(展望台・資料展示館付属)(写真)に行きました。現存する東日本地域で唯一の第1等灯台(レンズ直径が259cmと最大級)で、高さ31.3m、国の有形文化財に登録、国際航路標識協会による歴史的に特に重要な「世界の灯台100選」にも選ばれています。日本製レンガを二重に積み上げた堅牢さにより、2011年3月の東日本大震災時も、付近のマリーナ施設が破壊されたなか、影響を受けませんでした。

この灯台を設計・施工監督したのは英国人技師ブランドン(Richard H. Brunton 1841~1901)です。当時、日本は1854年の日米和親条約締結により開国はしたものの、近海は暗礁が多いにもかかわらず航路標識が未整備という状況で、そのため米英蘭仏各国との条約などにより近代的灯台の整備が急務となっていました。しかし独力で大規模な近代的建築作業を施行する能力がなかったため、新政府は明治元年(1868年)に「お雇い外人」第1号として、弱冠26歳ながら優秀な土木技師であった同氏を英国より招聘したのでした。そして、明治9年に帰国するまでの約7年半の間、同氏は、英国政府の支援も得つつ、犬吠埼など日本各地で全26灯台の建設に携わり、そのほか、横浜居留地の道路整備や東京・横浜間の鉄道建設のための測量、あるいは灯台技術者養成校設立などの多くの業績を残しました。



犬吠埼灯台(筆者撮影)

そうした業績に加え、今日われわれにとっての同氏の功績といえば、同氏が滞在中の詳細な手記\*を残したことです。お雇い外人技師の視点から、仕事上の問題、日本の役人や使用人との関係、日本の生活環境や社会制度、さらにはほかのお雇い外人の仕事ぶりなどにつき、体験・見聞したまを記述したものです。類似の記録がほかにほとんど残されていないといわれるなか、明治150年となるこの時期に、日本からの途上国向け技術協力やビジネスの分野でもあらためて参考にし得る貴重な資料かと思われます。

(調査部長 山本 拓)

\*『お雇い外人の見た近代日本』(講談社学術文庫)  
R.H.ブランドン(著) / 徳力真太郎(翻訳)